

## ■山村 達也（やまむら・たつや） 帯広畜産大 WR／DB 4年

コロナ禍に翻弄され、変則日程で行われた昨年の道学生選手権。1部Aブロックの帯広畜産大は、練習開始の遅れからリーグ初戦の北海道大戦に棄権し、「最初で最後の公式戦」として札幌学院大戦に臨んだ。カウボーイズのシーズン総決算の一戦で爆発したのが、当時3年生の山村。3TD、2インターセプトと3年ぶりの札幌学院大戦勝利の立役者となった。

1本目のTDは3-0で迎えた第1Q7分。札幌学院大陣15ヤードからの札幌学院大のパスを、DBの山村がインターセプト。そのまま26ヤードを駆け上がりエンドゾーンに飛び込んだ。2本目は第2Q2分、WRからTBにモーションした山村が3ヤードダイブでTD。第3Q8分にもゴール前からのダイブで3本目のTDを奪い、試合を決定づけた。前年の札幌学院大戦で、終了間際に同点に追いつかれたセーフティーのときのキャリアが山村だっただけに、「インターセプトは狙っていた。でもTDがこんなに取れるとは。強いOLのおかげ」と本人も驚くほどの鮮やかなリベンジ劇だった。

江別・大麻高ではバスケットボール部。畜大アメフト部の明るさと雰囲気の良いさに引かれ、先輩の誘いもあって入部した。「バスケットボールをやっていたので、キャッチには自信があった」とWRを志望。持ち前の脚力と合わせて、1年生から試合経験を積んできた。「チームメートと過ごす時間が楽しい」と、チームのムードメーカーも務める。

札幌学院大戦の勝利から1年。今季は5人の4年生の一人として、レシーバー陣の先頭に立つ。大学の決定で7月下旬から全体練習が出来なくなるなど、2021年シーズンもコロナ禍に悩まされる日が続くが、「今年はパスでTDを取る」と力強く宣言する。同じ4年生のQB貫井哲平とのホットラインにも自信たっぷりだ。秋季リーグ戦の目標は「3校には確実に勝つ。そして北海学園大と北海道大も食ってやりたい」と力を込める。



### 【プロフィール】

1999年6月24日、札幌市生まれ。畜産学部畜産科学課程。江別・大麻高出身。

170センチ、83キロ。